

退院支援における多職種連携についての意識調査 ～各職種が互いに求める役割と課題～

豊後大野市民病院 地域医療連携室
川邊雅世

【目的】MSWとして退院支援に携わる中、退院の為の目標設定が周知されない課題と直面してきた。「チーム＝多職種連携」とは何か、退院支援の捉え方等、各職種の意識を検証する事で課題を明確にする。

【方法】A病棟の医師・看護師・リハビリ担当・MSW・退院調整看護師に「退院支援における多職種連携について」のアンケート調査実施。

【結果】各職種が、連携が不足しがちな職種として挙げているのは、看護師・管理栄養士であった。また、十分な退院支援を行うために不足しているものは、全職種が「他職種の持つ情報の把握・共有」を挙げている。他に「患者や家族の思いを聴く事が不十分」と医師・看護師に対して挙げられ、医師については、当院で使用している多職種で記録する「退院支援経過記録」の認識に、ばらつきがある事も明らかになった。

【結論】調査結果・分析から 1)情報共有の方法を検討 2)記録充実の必要性 3)勉強会の必要性が明確になった。一方で、各職種「多職種で話し合う場は必要」との認識が一致している事は強みと考える。多職種連携での退院支援の質の向上が、地域の中核病院として病棟が担う誇りと責務と考え、チームワーク作りに取り組んでいく。

抄録字数が 500 字以内と指定された学会であった。